

7.21「参院選」最終予測

圧勝後の安倍自民「人事とオナナの闘い」/ Wムネオを直撃

サンデー毎日

大正11年3月31日第三種郵便物誌
2013年7月28日発行 第92巻第31号 通巻5176号
毎週火曜日発行(7月16日発売)

7.28号

定価 370円

「男手ひとつ」のマネー対策

もし妻が倒れたら

20種類飲み比べ
家飲み「ビール類」は
これが美味しい!

参院選後に 狙う株25銘柄

あきらめない! 痛風

本誌でしか分からない
**全国240大学
就職率ランキング**

©毎日新聞社2013

「自民」単独過半数目前！ 庄勝後の安倍自民「人事とオンナの闘い」

7・21「参院選」最終予測

終盤戦レポート「東京」「大阪」で大異変が起きている！ ▼どこまで下がる投票率

安倍批判も飛び出す「小泉進次郎」奔放演説の損得

新党大地「二人のムネオ」に本誌がダブル直撃！「同姓同名って、反則じゃないんですか」

参院選後に狙う「株」25銘柄

良識の府「参議院」オモシロ見学ガイド

「蒼国来復帰で角界激震 相撲協会に跳梁跋扈 北の湖「懐刀の正体」

人生は65歳からおもしろい ウキウキ夏計画編① 夏だ、オシャレで冒険だ！(男性編)

あきらめない！生活習慣病 ③ 痛風

「男手ひとつ」の「もし妻が倒れたら」

News Navi

- アシアナ機事故で、操縦ミス、急浮上
- 方針転換か「カタル新首長」の手腕
- 薬天・田中「稲尾超え」で開幕12連勝
- 「加藤発言」に球団オーナーも愕然！
- 関東連合暴露本と長瀬まさみの困惑
- 今週のブライイング 松崎菊也
- 景気は上向き？ ティーフ産駒に高値
- 民放「Eテレ」CM、放送拒否の損得
- 消費税先送りは「地方対策」だった？
- 白血病から復活「幸いってん」の気迫
- 総天然色で蘇る「ワルトラ」の全貌

あの文春が謝った！「ミキティ論争」侃々諤々

家飲み「ビール類」はこれが美味しい！

「暑い」は「辛い」で吹き飛ばせ！ 真夏厳選 ホット&スパイシーフード

富士山世界遺産登録 松原美穂 三保松原に学ぶ「あきらめない」

中絶年のための「シリウス」

「内定」がもらえない学生 9つの共通点

全国240大学「就職率」ランキング

78 75 132 131 142 138 144 28~33 135 146 38 26 24 22 21 20 19 16

【グラビア】

- マガモ除草隊だいま作戦行動中山形県庄内平野 3
- ONLINE OFF
- フランス ノルマンディーの祭典「アルマダルーアン」に集う世界の帆船 155
- 「この名にちなんで」
- 逆転宮城の三保松原を訪れた女優の松原美穂 11
- 「猛者に餌」
- 太平洋高気圧に覆われ、局地的な大雨や滞留「お待たせ！」 12
- 日ハムの大谷翔平選手が特製の物ホームラン 13
- SUNDAY CAFE 151
- ニュースな動物たち 153
- 湯ったり共同浴 160
- あの頃ボクらは若かった 162

【コラム】

- サンデー時評
- 政経外科
- 青い空 白い雲
- 満月雑記帳
- ナマコからえぼり
- ワイドショーの恋人
- 往復書簡
- ニッポンぶらり旅
- 加齢なる日々
- ドファアラ門
- なんとか生きてますッ
- 花咲く大地に接吻を
- それってどうよ？
- マナー
- 幸せな老後への一歩
- 荻原博子 44
- 岩見隆夫 36
- 佐高 信 34
- 牧 太郎 128
- 中野 翠 42
- 椎名 誠 124
- 山田美保子 109
- 中村うさぎ 130
- 太田和彦 122
- 小川有里 55
- 山下洋輔 72
- 大宮エリー 126
- なかにし礼 48
- 池野佐知子 46

【小説】

- 悲嘆の門 宮部みゆき 56
- 笹の舟で海をわたる 角田光代 104
- 対談
- すみきちのぶつちやけ堂 住吉美紀 50
- ゲスト 広瀬香美
- スポーツ
- 予想上手の馬券ベタ 井崎脩五郎 103
- Sports Spirits 小川 勝 120
- データスタジアム (Baseball) 121
- モノ
- 一生逸品 北村 森 45
- マンガ
- のぞみ 毛利甚八 89
- ウマツラ支店長の味見② ひきの真二 35
- いつでも梅を コジロー
- 趣味
- サンデー俳句王 70 / 今週の暮会所 61
- メンバーピンドットのhoroscope 47
- ニコリの数独、カナオレ 86, 87
- 読者
- ミセス通信 66 / 読者プレゼント 68
- 読者から 150

SUNDAY LIBRARY

- インタビュー 湊かなえ 111
- 平松洋子の読書の部屋 112
- 時代歴史小説 / サイエンス 113
- 今週のイチオシ 114
- 旅行靴の片隅に 116
- 私の本屋賞 116
- CINEMA BOX DVD発掘良品 118
- Art Scene 119
- 恋する音楽 119

「男手ひとつ」のマネー対策

もし妻が倒れたら

夫婦は「空気のような存在」と言う。けれど、もし妻が倒れたら……。仕事に看病、家事、育児が「男手ひとつ」にのしかかる。万一に備えた「マネー対策」は決してムダではない。もはや「一家の大黒柱」は男とは限らないのだから。

芸能ニュースを記憶の方も多いだらう。女優の鷺尾いさ子さん(46)が数年前から重病を患っていることがこの春、



「まさか」は誰にでも起こり得る

一部で報じられた。夫の俳優、仲村トオルさん(47)は仕事をセーブすることなく、妻を看病しながら、家事と2人の子の子育てを引き受けているという。厚生労働省の「平成23年患者調査」によると、女性の入院患者は全国で72万7500人、外来患者は419万8000人。入院で男性を2割近く、外来では4割近く上回っている。がん検診の推進やマンモグラフィーの性能向上により、女性のがん早期発見が可能となったことも少なからず影響しているようだ。

センター」が公表している最新がん統計(2008年)で罹患数(全国推計値)を見ると、女性の罹患トップは乳がん。前出の厚労省「患者調査」によれば、推計患者数(入院・外来含む)は、1993年に1万7600人だったのが、02年には2万2400人に急増。11年には2万9300人まで増え、18年前の1.66倍に達している。

死亡数はどうか。厚労省の「平成24年人口動態統計月報年計(概数)の概況」を見ると、25〜49歳の「子育て世代」の女性の死亡数は計1万3000人余り。同年の死亡総数約125万6000人から見ると、決して多いとは言えないかもしれないが、この数字の陰に涙を流す家族、友人が確かに存在する。

妻が若く健康だったとしても、病は突然、あなたの家族を襲うのだ。都内に住む会社員Aさん(35)が妻の体の異変を知ったのは、今から7年前。乳がんとわかった妻は2年後、33歳の若さで逝ってしまった。元々「イクメン」を自任していたAさんは、妻の入院中から毎日のように見舞いに通い、2歳と5歳の子の面倒を見ながら家事を義母と分担してこなしていた。しかし、妻の四十九日が過ぎたところから、状況は一変する。義母に「あなたに新しい人生を歩んでもらうためには、いつまでも私が家事、育児を分担するわけにはいかない」と言われたのである。月に何度かは泊まり勤務があるAさん。思いあぐねた結果、職場から徒歩で通える距離にあるマンションに転居することにした。家事については何の不安もなかった。しかし、予想もしない現実が待ち受けていた。「家賃が一気に8万円もアップしてしまいました。もつとも、「職住接近」で時間の効率が良くなり、通勤で満員電車で揺られて体力を消耗していたところに比べると『ヨシ』としたい。ただ、『何とかなるだろう』と、見切り発車してしまった保育所の件が大誤算だったのです」(Aさん)

都心では郊外に比べて保育所の数が少なく、Aさんが住む地域では、入園が不可能なほど待機児童があふれていた。育児休業制度を調べてみると、子が1歳もしくはは一定の条件をクリアした1歳6カ月までの場合

にしか適用されず、Aさんの家庭は対象外だったことも判明。遺族年金にしても、国民年金は「一定の要件を満たす妻、または子」という要件に該当せず、厚生年金の場合は夫が55歳未満の場合には権利が発生しない。Aさんのように、若くして「残された夫」には支給資格すらない、という大きな落とし穴がある。

困り果てたAさんは「下の子が小学校に入るまで」と自身に言い聞かせ、ベビシッターを雇うことで当面の事態を乗り切ろうとした。しかし、その費用が1カ月15万円にまで膨れ上がり、家賃上昇分と合わせて毎月23万円出費が増えた。年額では276万円の支出増である。マイホーム資金として、夫婦でコツコツと貯金していたことが救いとなつたが、それでも猛スピードで貯金は切り崩されていく。残高が減る一方の通帳を見て、「底知れぬ不安感にさいなまれ、言い知

れぬ恐怖を味わった」とAさんは振り返る。Aさんは結局、生活費を切り詰め、遠方に住んでいる両親に協力を仰ぐことで経済的な決着を見いだした。民間保険に加入するなど「備え」があれば……と

真つ先に「障害年金」の検討を

「まず、真つ先に検討すべきなのは障害年金制度です」と、社会保険労務士の大西英樹さんは強調する。「あまり知られていませんが、20〜64歳まで受給できるうえに、うつ病などの精神疾患、脳梗塞、人工透析がん、ペースメーカーを入れている人など、ほとんど

の病気が対象となります。生活保護を受けている場合は、あまりメリットがありませんが、そうでなければ検討してみる価値はあるでしょう」(大西さん)

障害年金は、重度の障害を抱える人だけの制度と思われがちだが、そうではない。例えば、夫の扶養内でパート勤めをしている妻が何らかの病気で倒れた場合、障害基礎年金と子(2人)の加算を合わせて月10万円余り受給できるケースもある。もし、これを民間保険でカバーしようとする

と、相当額の保険料が必要となってしまう。そのほか、入院・通院した場合に適用される「高額療養費制度」がある。この制度は年齢区分で「70歳以上」「70歳未満」、および収入区分によって、それぞれ計算方法が異なるが、入院・通院にかかわらず、事前に申請しておけば窓口精算が可能となる。「おおよその目安として、毎月1日から月末までの間、一世帯の病院での支払い総額が8万1000円を超えそうな場合は、その超えた金額を支給する制度です。もし医療費が100万円

で、本人負担(3割)が30万円かかった場合、高額療養費として21万2570円が支給され、実際の自己負担額は8万7430円となります」(大西さん)

自己負担を軽減する難病医療費等助成制度や、40〜64歳までなら特定の疾病を対象とした介護保険制度も併せて覚えておきたい。

前出・Aさんの妻は専業主婦だったが、共働き世帯も多い。妻が仕事を持つている場合はどうなるのか。前出・大西さんが解説する。「健康保険、各種共済組合などの加入者が病気やケガで仕事に就けない場合、療養中の生活保障として支給される傷病手当金制度があります。しかし、メドとし

て給与の約6割、支給期間が最大でも1年6カ月しかない。また、雇用保険の傷病手当は求職中しか受け取ることができません」

自治体の子育て支援も有効利用したい。千葉県船橋市の例をあげると、事前に登録すれば、原則、平日の午前6時から午後10時まで1時間700円で、保育施設までの送迎、一時預りなどの援助を行うファミリーサポート制度がある。男性には何かと不慣れた場面も多い子育てでは、一人で抱え込まず、自治体窓口相談してみる手はありそうだ。

「夫にもしものことが……」を想定している家庭は多くても、妻の「万一」を考えている家庭は、意外に少ない。このため、妻が倒れた際の備えは手薄になつているものと言えそうだ。

前出のAさんも、その一人だった。妻が亡くなった場合に備えて民間保険に加入していれば、少なくとも経済的には少し余裕が生ま

「専業主婦でもOK」万に備える保険の例

[30歳女性の場合]

保険種類	保険会社・商品名	特長	保険料
死亡保険 (定期保険)	オリックス 生命 Bridge	ネット専用定期保険 掛け捨て型。 死亡保障で病気でも事故でも災害でも同額の死亡保障となる。	死亡保険金500万円(10年満了)なら毎月の保険料は599円、 死亡保険金1,000万円(10年満了)だと毎月の保険料970円
死亡保険 (収入保障)	NKS J ひまわり生命 家族のお守り	死亡・高度障害時に契約期間満了時まで毎月定額の年金を受け取れる。 三大疾病(がん(悪性新生物)・急性心筋梗塞・脳卒中)で所定の状態になった場合、保険料の払い込みが免除になったり、生活費をサポートする特定疾病年金を2年間毎月受け取ることができるオプションがある。	年金月額毎月15万円、保険期間および保険払込期間65歳満了、非喫煙者健康体の保険料は毎月3,570円、 [*] 三大疾病保険料免除。(特定疾病診断保険料免除特約)付なら毎月3,780円。 さらに三大疾病生活費支援(特定疾病収入保障特約)毎月15万円をつけると毎月5,790円
所得補償 保険	損保ジャパン 所得補償保険	病気や怪我で働けなくなったときの所得をカバー。 所得のない専業主婦専用のプランあり。1年間無事故の場合、年間の保険料の20%が [*] 無事故戻し返戻金、として返ってくる。	【職業に就いている方】 満30歳～34歳 基本1級 所得補償 月額15万円の場合、毎月1,970円 【専業主婦の場合】 奥様入院安心プラン 満30歳～34歳 月額15万円限度の補償額で、毎月1,260円
終身医療 保険	チューリッヒ 生命 終身医療保険 プレミアム	一般的な医療保険にあるベーシックな保障に加え、胃潰瘍、精神疾患などの所定のストレス性の疾病による入院を1回の入院につき365日まで延長する。がんと診断、または急性心筋梗塞、脳卒中で入院した場合、以後の保険料の払い込みが免除される。	保険期間・保険料払込期間は終身、基本プランの入院給付日額 5,000円 [60日限度]コース(入院給付日額 5,000円、手術給付金<1回>入院中 10万円、外来5万円、放射線治療給付金<1回>10万円)の場合、保険料は毎月2,835円。さらに、オプションの先進医療特約(先進医療給付金<技術料と同額>通算2,000万円限度)をつけた場合、保険料は毎月2,959円

れていたかもしれない。詳細は別表をご覧ください。たとえばオリックス生命の「Bridge」(インターネット専用の定期保険)は、30歳女性の場合、死亡保険金500万円(10年満了)なら毎月の保険料が599円、死亡保険金1,000万円(10年満了)でも、毎月の保険料970円が加入できる。

入院時の補償が受けられる商品もある。この所得補償保険が1年ごとの更新であるのに対し、「就業不能保険」は、長期療養で失職したり、休職して収入がない場合に支払われるが、加入には制約がある。このほか、がん・心筋梗塞・脳卒中などになった場合、一時金が支払われる「特定疾病保障保険」もラインアップされている。

「収入保障」は、給料のように毎月決められた金額が支払われる。金額は徐々に減るが、その分保険料は安い。妻が倒れて家政婦を雇ったり、夫が家事・育児で仕事をセーブせざるを得なくなる事態に備え、子育て世代に人気だ。特定の疾病に罹患した場合、保険料が免除される商品もある。

元氣そのものの妻が病に倒れ、ひよつとしたら亡くなってしまう……現役の子育て世代には想像し難く、また話し合いにくいのも確かだろう。だが、妻がいづまでも元氣でいる保証はどこにもない。そして多くの場合、残った夫が一人で家族を支えるには限度がある。前出・Aさんの事例は決してひとつとことではないのだ。「もしも」にどう備えるか、夫婦で向き合う必要があると思う。

保険ジャーナリスト・

鬼塚真子